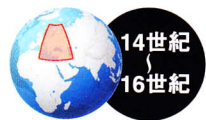


ロシアの基礎を築いた モスクワ大公国



14世紀
16世紀

ノルマン人の移住と
スラヴ化、モンゴルの支配
などをへて、ロシア帝国の
基礎が築かれた。

ロシアの起源と モンゴルの侵入

ロシアでは、9世紀にスカンディナヴィア半島から、首長リユーリクに率いられたノルマン人の一派ルスがやってきて、ノヴゴロド国を建国。その後中心地が南に移り、キエフ公国がつくられた。これらに次いで、キエフ大公ウラディミール1世がビザンツ帝国(P72参照)皇帝の妹と結婚し、ギリシア正教に改宗、ビザンツ文化や農奴制を取り入れ、11世紀には領土を拡大した。

しかし、13世紀になるとチンギスハンの孫バトウに率いられたモンゴル軍が侵入(P64参照)。1240年にキエフを陥れ、以後約240年にわたりロシアはキプチャクハン国の支配下に入った。このモンゴルによる支配は、ロシア史上「タタールのくびき」とよばれている。

モンゴルの支配下で 力をつけたモスクワ大公国

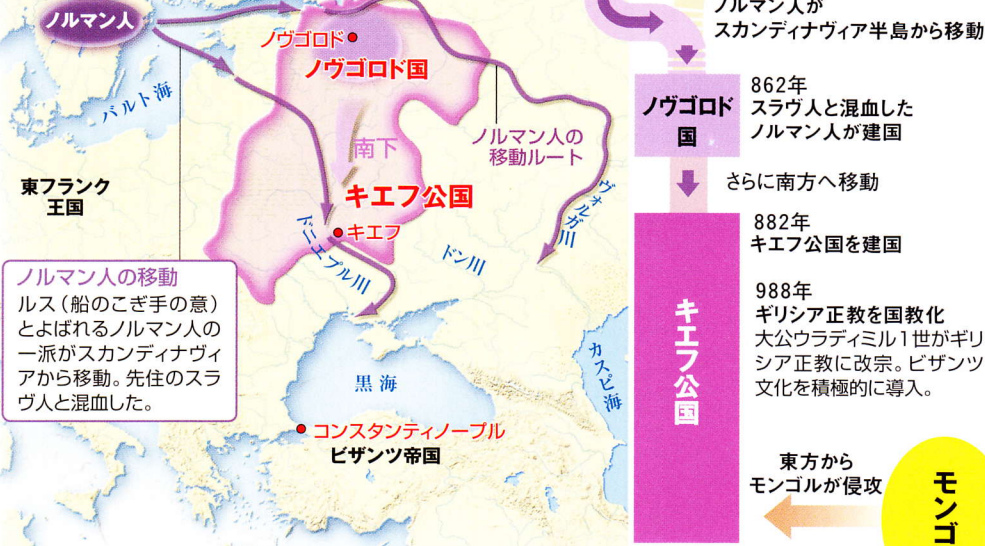
この「タタールのくびき」のなかで次第に力をつけはじめたのが、ヴォルガ川支流沿いの水陸交通の要衝に位置したモスクワ大公国であった。モスクワは14世紀後半にはクリコヴォの戦いでモンゴル軍を退けるなど、モンゴルの支配に反撃を加えた。そして15世紀後半になると、イヴァン3世がビザンツ帝国最後の皇帝の姪と結婚してツァーリ(皇帝)を名のり、1480年にはキプチャクハン国への忠誠を拒否して「タタールのくびき」から脱した。続くイヴァン4世(雷帝)は農奴制を強化し、大貴族を弾圧するなど、中央集権的なツァーリ体制を築き、ロシア帝国の基礎を固めた。

ノルマン人の移動からモスクワ大公国の発展まで

ノヴゴロド国とキエフ公国(9~10世紀)

スラヴ民族の住む地域にノルマン人の一派がやってきて建国。ロシアの起源となった。

スカンディナヴィア半島



ノルマン人の移動
ルス(船のこぎ手の意)とよばれるノルマン人の一派がスカンディナヴィアから移動。先住のスラヴ人と混血した。

スラヴ人 ドニエプル川流域のスラヴ人の住む地域

ノルマン人

ノルマン人がスカンディナヴィア半島から移動

ノヴゴロド国
862年
スラヴ人と混血したノルマン人が建国

さらに南方へ移動

882年
キエフ公国を建国

988年
ギリシア正教を国教化
大公ウラディミール1世がギリシア正教に改宗。ビザンツ文化を積極的に導入。

東方から
モンゴルが侵攻

モンゴル

▼ 征服される

タタールのくびきとモスクワ大公国

モンゴルの支配下で力をつけたモスクワ大公国が、ロシア帝国の基礎をつくった。



モスクワ大公国
15世紀後半にイヴァン3世が北ロシアを統一。

1380年
クリコヴォの戦い

キプチャク=ハン国(モンゴル帝国)
13世紀後半の最大版図

○p.64

チュド湖の戦い(氷上の戦い)
アレクサンドル=ネフスキー率いるノヴゴロド軍がドイツ騎士団を撃退。

ビザンツ帝国
コンスタンティノープル(イスタンブル)

イル=ハン国

タタールのくびき(モンゴルによる支配)

キプチャクハン国

モスクワ大公国